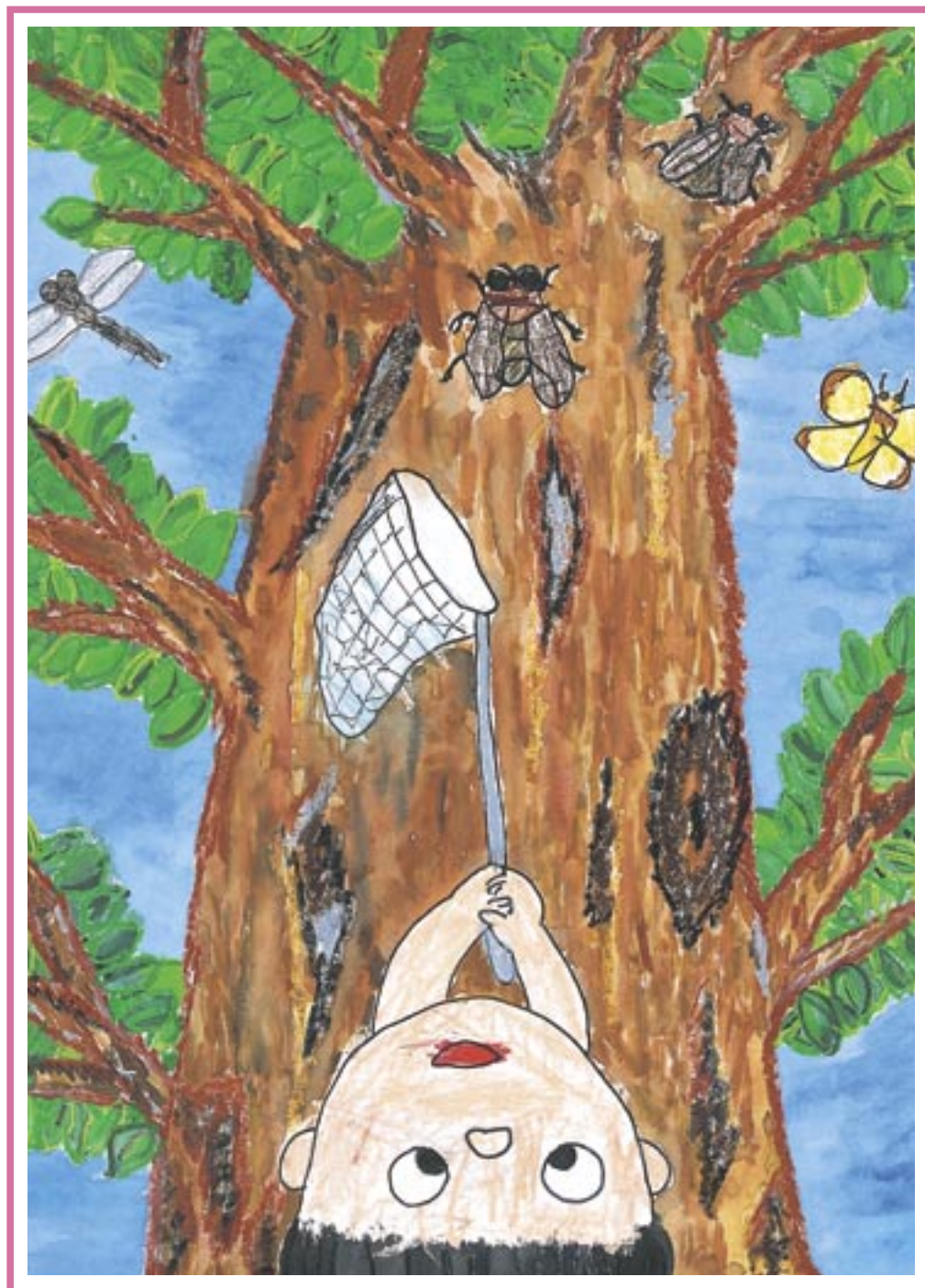




第21号

2004.3



社団法人 千葉県緑化推進委員会

# 今年は緑の募金法制定10周年

～ボランティアなみどりの社会づくりに向けて～



平成7年、「緑の募金法による森林整備等の推進に関する法律（緑の募金法）」が制定され、今年で10周年。名称も緑の羽根募金から緑の募金に変更し、より一層グローバルな意味を持つようになったのですが、ご存知でしたか？

そもそも緑の羽根募金運動は、戦後の混乱期、大量な木材の需要などもあって伐採が激化し国内の森林が荒廃の一途をたどるなか、私たち一人ひとりが協力し、かけがえのない共有財産であるみどりを取り戻そうと始まった運動です。大勢の方々のご尽力や緑の羽根募金による事業の成果もあり、森林や身の回りの環境にはみどりが戻ってきました。

しかし産業の高度成長や生活様式の大きな変化など、時代の移り変わりとともに、みどりに求められる内容も多様化してきました。

たとえば世界的規模の緊急課題である地球の温暖化問題と森林のCO<sub>2</sub>吸収&固定機能の関係や、とかくストレスの多い現代ではみどりの癒し効果への期待、そして次代を担う子どもたちの体験学習の場としての活用など。

現代の緑化運動は木を植えることのみならず、さまざまなテーマにおいて「みどりの持つさまざまな公益的機能をいかに引き出すか」ということがポイントになってきています。

そうした中、国内的にも国際的にも、森林の整備や緑化の推進が未来の環境や社会には重要かつ不可欠との認識のもと誕生したのが「緑の募金法」です。

そして今年で法制化10周年。この間、「緑の募金」は経済が停滞する厳しい状況にありながらも多大なご支援をいただくとともに、この運動自体をいっしょに盛り上げようと、幅広く各方面からご参画をいただけるようになるなど、ボランティアなみどりの社会づくりが着実に醸成してきています。

今回は、緑の募金法制定10周年を迎えましたことから、緑の募金運動の近況をご紹介しますとともに、今後ともより一層のご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

## ●緑の募金の今年のポスター。

「おひさま」「やま」「うみ」が、それぞれシュメール文字、中国古代文字、トンパ文字でデザインされています。緑の募金は、春の新緑シーズン（3月～5月）と秋の紅葉シーズン（9月～10月）の年2回。家庭募金、街頭・イベント募金、職場募金、企業・団体募金、学校募金などで行っています。





### ●募金活動に参加。

緑の少年団、ボーイスカウトなどのグループが、街頭で募金活動を行ったり、学校・企業のイベントで募金箱を設置していただいたり…。ご寄付という形だけでなく、募金活動自体に参加するという、一歩踏み込んだ取り組みも増えています。



### ●企業によるご協力の一例をご紹介します。

商品と緑の募金、もしくはショッピングカードなどと緑の募金がタイアップし、その売り上げの一部を緑の募金にご寄付いただいています。このような方法でのご協力がいろいろな形で始まっています。

#### 「平成 15 年度から始まったユニークなご協力です」

飲料自動販売機での「緑の募金」運動。自販機の収益金の一部が「緑の募金」に寄付されるというものです。ジュースやミネラルウォーターなどの飲料は、森林から供給された水で作られます。また自販機に必要な電力を作るにはCO<sub>2</sub>が排出されます。CO<sub>2</sub>を吸収し、きれいな水を育む森林に少しでも恩返しを。そんな思いを具現化していただいた例です。



### ●「緑の募金」で CO<sub>2</sub> ダイエット！

地球温暖化問題がクローズアップされ、その役割の大きさが再認識されている森林。地球温暖化防止京都議定書では、温暖化の原因の一つ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を、森林吸収で 3.9% 削減させることに。緑の募金へのご協力は、結果として CO<sub>2</sub> の削減につながっています。



### ●地球を緑化。

「緑の募金」は、その一部が社団法人国土緑化推進機構を通じて、世界的規模の緑化に使われています。たとえばベトナムにおけるマングローブ植林支援、熱帯雨林再生のための植林など、平成 14 年度だけでも 47 事業が行われています。写真は、内モンゴルの沙漠緑化を支援する、沙漠植林ボランティア協会の植林風景です。



### ●子どもたちにみどりとふれあいを。

学校や公園などの公共的な場所への植樹もおもな用途の一つ。そして、そうしたところへの樹木ラベルを取り付ける運動も行っています。「みどりの大切さを考えたよ」「へえ、これがヒイラギっていうの」。子どもたちがみどりとふれあう環境整備に役立っています。



### ●元気いっぱい、緑の少年団。

緑の少年団は昨年为全国植樹祭でも大活躍。そんな緑の少年団の育成にも、「緑の募金」は役立てられています。「未来の緑は僕たち、私たちが守り、育てるぞ!」。



### ●各市町村への還元事業も行っています。

「緑の募金」は各市町村のご協力を得て、県下全域で実施しています。ご寄付くださった方への

最も身近な事業として、各市町村の特色や環境に調和した各種緑化活動を支援しています。



### ●ボランティアの育成。

みどりのボランティアとして、森林整備に参加される方が増えています。「いい汗かいたよ」「自然に役立つ作業ってのは気持ちがいいね」。「緑の募金」はボランティアによる森林整備活動を支援しています。



# スローライフ、 始めてみませんか？

最近、新聞や雑誌などでよく見かける言葉、スローライフ。ゆっくり暮らすこと、のんびり生きることがそのテーマのようです。いわば、少し昔に帰ったライフスタイルです。科学の発達によるスピード社会に、ちょっと疲れ始めたのかもしれない。

## ★スローフードとの関係

スローライフの一つの手がかりは、食生活です。スローライフという言葉が、スローフードという言葉から派生したライフスタイルだという説。ではスローフードとは？数年前、食文化を誇るイタリアに、アメリカのファーストフード店がオープンしました。食事の時間に数時間を費やすことを厭わないイタリアに、ファーストフードが乗り込み、大変な話題になったものです。その騒ぎをきっかけに生まれた言葉がスローフードです。ファーストの反対のスロー。ただし、スローフードの定義は、単にゆっくり食べるという意味では終わりませんでした。スローな食事を追求していった先に見えてきたのは、外からの食材や料理を食べる生活ではなく、郷土の食材、食文化を大切にしようという姿勢だったのです。

そうした視点でスローライフをしてみると、私たち千葉県民はとても有利な条件にいてではありませんか？

千葉県は、豊かな大地や海に恵まれて、たくさんの



今年も良い作柄でありますように。全国第2位の出荷量を誇る千葉県のスイカ

食材を産出しています。また、そうした食材を使った郷土料理もたくさんあります。一方、千葉県は、県内で生産された農林水産物を県内で消費する「千産千消」（通常は地産地消と書きますが、千葉にちなみ、地を千と変えています）を推進しています。

毎日の生活の中で、地元で採れた食材や季節の食材を使うこと。それもスローライフといえるのですから、スローライフ、すぐに始められそうな気がしませんか？

## ★自然との関わり

では次に、食生活以外の部分で、スローライフについて考えてみましょう。ゆっくり生きるという意味に含まれる大切な要素、それは自分らしく、自分のペースでということです。とはいえ、人間として社会人としての私たちは、簡単に自分のペースで生きるわけにもいきません。ところが自然は、まさに自然のリズム



12月、船橋のカブ畑。千葉県のカブの出荷量は全国一である



で存在しています。その上で、私たちをおおらかに迎え入れてくれます。森に入ると不思議に落ち着くのは、人間として、単なる生き物として、立ち返れるからでしょう。自然の中では、私たちは素直に本来の自分を取り戻せるのです。そういう意味で、自然を理解し、自然を大切にすることは、スローライフを目指す者にとって当然なのです。

その自然で、私たちの生活の最も近くにあるのが里山です。田んぼがあり、せせらぎがあり、野草が生えていたり、カエルがいたりする…。そんな日本人にとっての原風景、安らぎますね。里山は、今ではスローライフを求める人々のサンクチュアリー的存在ともなっています。

ところで、昨年、千葉県は都道府県レベルでは全国初の「里山条例」を制定しました。千葉県には、まだまだたくさんさんの里山が残されています。それでも、生活様式や農業生産方法などの変化もあって、何もしなければ里山はあっという間に荒れてしまいます。そこで、大切な里山を未来に残せるよう、保全を目的に制定されたのが「里山条例」です。千葉県民として、身近な自然をいつまでも大切にしたいものです。当委員会では、たとえば「みどりのボランティア」による山林の整備などを行い、里山の保全などにも力を注いでおりますので、ご関心のある方は、気軽にご連絡ください。

## ★緑のエコライフ実践で スローライフ

また全国の緑化推進委員会が呼びかけていることに「緑のエコライフ」があります。緑のエコライフとは、緑の循環社会をつくっていくために、私たち一人ひ



とりが心掛けたいライフスタイルのことをいいます。

緑の循環社会。ちょっとむずかしい言葉のようですが、つまりは、自然のサイクルを大切にすることです。まず、植樹、下刈、間伐、枝打などを行い、健全な森を育てます。森は、二酸化炭素の吸収、洪水・土砂崩れの防止、豊かな漁場づくりなど、いろいろな恵みを私たちや地球に与えてくれます。その森で成長した国産材の木製品を使う

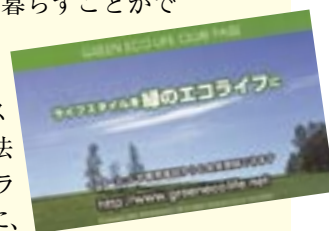
ことや、毎日の暮らしの中で省資源・省エネルギーを心掛けます。庭の水撒きに、お風呂の残り湯を使うことだってエコライフの一つ、木製



国産の木製品を使うことも  
スローライフにつながる

テーブルを大切に使うこともエコライフの一つです。緑の募金にご協力いただくこともエコライフの一環です。そうしたライフスタイルの結果、森は本来の自然のサイクルを保つことができ、私たちは、いつまでも美しい地球、健康やかな環境で暮らすことができるのです。

もう気が付かれましたか？そう、緑のエコライフを実践することは、スローライフにつながるのです。社団法人国土緑化推進機構では、緑のエコライフの実践を自分自身に約束する方に、「緑のエコライフクラブパス」を発行しています。インターネットや携帯電話からも登録できますので、アクセスしてみてください。http://www.greenecolife.net



## ★身近なことから 始めてみよう！

意外に身近にあるスローライフへの道。住んでいるところで採れたものや、その季節のものを使った食事をする。自然を大切にすること。自然と接する時間を持つこと。ものを大切に使うこと。スローライフの要素は、どれも、おじいちゃん、おばあちゃんの時代には当たり前のことばかりです。あまりむずかしく考えず、自然に帰ってみませんか。

鴨川市の大山千枚田。都会に最も近い棚田として知られる。機械が入りにくく、耕作地としての維持管理が難しいため、大山千枚田オーナー制度を作り、保存会が管理運営。有料で一般に開放し、農業への理解を深めている



平成15年に行われた緑のエコライフキャンペーンイベントの一コマ。お一人おひとりのみどりづくりへの参加を呼びかけ、緑化苗木や各種花の種の配布を実施。16年度もみどりの日に同キャンペーンを実施予定（8p参照）



緑

自

慢

児童数 300 名。少子化の時代にあつて、周南小学校は児童数が増加傾向にあります。周辺に新しい住宅地ができたためということですが、山懷に抱かれた形で建つこの学校、不思議に暖かさを感じるのは、春の陽のせいだけではないようです。

今回、周南小学校をご紹介する理由は、裏山を教育の森として活用し、子どもたちの教育に役立てているためです。もともと、周南小学校は自然環境に恵まれていました。教育的な視点から、これは絶好の教育環境になると考え、平成 8 年、学校の北側一帯の山林を「教育の森」として申請、県から認定を受けました。その名も「周南の丘」。たくさんの命がうごめくザリガニ池を作ったり、竹の伐採や下草刈りなどもしました。「周南の丘」を通じて、さまざまな形で自然の大切さを子どもたちに教えることができたのです。そして、昨年はさらに大きくステップアップしました。君津支庁と森林組合が協力して「周南の丘」の間伐を実



施し、その間伐材で、PTA の方々が遊歩道を整備したのです。「周南の丘」は一層親しみやすい森に変身しました。そこで、総合的な学習として、5 年生は巣箱掛けをし、3 年生は植物や昆虫の調査をしました。

「これからは、ますます自然環境が大切になると思います。教育の森の良さを認識しながら、広場を作ったり、野鳥とのふれあいをしたり…。いろいろな関わり方を考えたいですね」と伯ヶ部校長先生。「来月は 2 年生がシイタケのコマ打ちをしますよ。実際にシイタケが出てくるのは来年の秋かな？」自然に詳しい豊島教頭先生は、頼もしいリーダーです。「あっ、しほり水（湧き水）にサンショウウオの卵、見つけた！」子どもたちの声が、「周南の丘」に響きます。

学校近くの森林を所有者の協力を得て、野外活動や自然観察のフィールドおよび間伐、枝打などの体験の場として提供する「教育の森」制度。学校が山林を所有する学校林とともに、容易に森林の教育的利用の実践の場が得られる「教育の森」制度は、これから注目のシステムとなりそうです。



オススメします。この本



### 「森暮らしの家 全スタイル」

田淵義雄著

「遊びをもって自然を迎え入れることができれば、人生は花々や甘い匂いのハーブのように香しい」とは著者の言葉。山小屋風の家、薪ストーブまたは炉床の建て直し、ゴミになる土になれ…など、魅力的なテーマ満載の、保存版自然生活スタイルブックである。

小学館 3,990 円(税込み)



### 「里山大百科」

いちばん身近な自然の四季

平野伸明 新開孝 大久保茂徳著

雑木林、田んぼ、カブトムシ…。懐かしい「さとやまの四季」に草木や生きものを見出す楽しみが、3 人のカメラマンによる全 800 点のカラー写真で展開される。開発で失われつつある里山。その里山の生態系を残したい、という思いからこの本は生まれたという。

TBS ブリタニカ 4,935 円(税込み)

上記の本を、それぞれ 1 名の方にプレゼントします。ハガキに希望する本、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係へご応募ください。また、グリーンえっせんすをどこでご覧になったか、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は 8 ページ右下参照。締め切りは 7 月末日(当日消印有効)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。



# 企業の中の緑

千葉ゼロックス株式会社  
(千葉市)

幕張新都心のシンボリック存在、WBG内に本社があり、県内に8ヶ所の営業拠点と10ヶ所のサービス拠点を持つ「千葉ゼロックス株式会社」。1981年に、富士ゼロックスとキッコーマンの共同出資により設立され、現在、従業員数は325名。コピー枚数において、千葉県内のシェアの50%を占めるトップブランドです。

「年間にすると約20億万枚の紙を排出していることになります。頑張れば頑張るほど、環境に負荷を与えることになってしまうのです。紙は木から作られますからね。そこで、コピーに使う量と同じだけの木を植えることで、地球に恩返しをしたい。と考え、富士ゼロックスはニュージーランドに植樹を始めました。でも、私としては地域との調和も大切にしたいかったのです」。

そこで始めたのが県内での植樹でした。2001年、創立20周年を記念し、君津市清和県民の森にて、社員と家族90名が参加し植樹活動をスタートさせ、昨年、4回目の植樹を行いました。

「第一回目の当日は雨でして、社長は革靴だったものですから、泥でぐちゃぐちゃになりましたね」「そうなんだよ、ひどい目に遭ったんだよ。でもね、この木、早く大きくならないかななんて子どもが言ったり、作業後のバーベキューの時、社員と

親しく語り合えたりしてね。いいものですよ。もっとたくさん植えたいけれど、植えればいいというものでもないだね」。

当時を思いながら楽しそうに語る、山内社長と大野総務課長さん。植樹前の山の整理、植樹後の草刈、間伐のことなど。山やみどり、環境への興味は深まるばかりのようです。「今、私たちは情報セキュリティマネジメントとして、紙を減らすことのできる情報伝達方法を提供しています。コピーの会社がそれでいいのかと言われますが、利益を出すだけが企業のすべてではありません。価値前提の経営が必要なのです。木だけ見るのではなく森を見る姿勢、未来の森づくりが大切なのです。これは

企業にも地球にも言えることですね」。

企業の社会的責任「CSR」が問われる昨今。特に環境への対応はその重要なキーワードです。千葉ゼロックスは、2003年、千葉県経営品質賞で県知事賞受賞。CSRでも県内のリーダー的存在になっています。



## 一二三 多作さん(77歳)

(社)国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくに・にっぽん」運動。森林を守り育て、その恵みを活かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人100人」を選定。その一人に、今年も千葉県から、館山市の一二三多作(ひふみ・たさく)さんが選ばれました。名手・名人の対象(内容)は、「森づくり」「加工」「森の恵み」「森の伝承・文化」の部門に分けられていますが、一二三さんは養蜂家として、森の恵み部門で認定を受けました。

一二三さんが養蜂を始めたのは、21歳の時。戦後復員して、当時はまだ貴重な甘味料であったハチミツに着目し、郷里青森で5年間修行した後、独立。その後、奥様のご縁で館山市に移転。館山市は、日本で一番平均気温が高く、ハチミツの採集とハチの越冬には適しているのだそうです。こうして館山市に直売所兼自宅を構えた一二三さんは、採集技術の研鑽に努め、館山市・



安房郡一円で菜の花などの蜜採集をするとともに、地域の特産品であるビワ、イチゴなどの花粉交配を進め、その収量増などに、今も協力しています。

また、採集地域は県内にとどまらず、桜前線の北上に合わせて、茨城～栃木～福島～青森県などの山々を巡り、ハチミツの採集をし、梨、サクランボ、桃、リンゴなどの果樹の花粉交配を行っているそうです。さらには、他県の養蜂家が房総で越冬する際の世話役を務めるなど、同業者との技術交流にも努めました。そうした功績が認められ、平成5年、千葉県知事賞を受賞。平成9年には千葉県養蜂協会会長に就任。平成16年、組合員のための多忙な時間からは解放されましたが、現役の養蜂家として、まだまだお忙しい一二三さんです。

「50年以上やっていますが、まだまだ勉強。毎日刺されるけど、まあ幸せだね」。名人ならではの、暖かい笑顔で語ってくれました。

# 森の名手・名人

## 引き出そう、みどりのちから。 春季・緑の募金にご協力ください

### 平成 16 年度 緑の募金運動

#### ■目標額 3,500 万円

3 月 1 日から 5 月 31 日まで  
県内全域で「春季・緑の募金」  
運動を行っています。募金運動  
の方法は各市町村で異なります  
が、募金は本委員会、各市町村  
窓口、募金箱設置にご協力の各  
事業所等で受け付けております。



県民の皆様の深いご理解と暖かいご支援をお願い  
いたします。



企業・学校等職場単位での募金や催しなどでの  
募金、また募金箱の設置も推進しておりますので、  
ご協力、ご関心のある際は本委員会までご連絡くだ  
さい。



平成 15 年度においては緑の募金法に基づき、春季・  
秋季の 2 回を実施し、その募金総額は 35,764,568 円  
に達しました。

お寄せいただいた募金は、みどりあふれるさわや  
かな環境づくりを目指し、学校や公園といった公共  
施設などの緑化や緑化思想の普及啓発、緑の少年団  
の育成や森林整備ボランティア活動の支援など大き  
く役立てられました。

またその一部は世界規模での緑化運動や森林の  
整備にも役立てられています。

## T o p i c s 第 54 回全国植樹祭開催を記念して 緑の良書 50 選ほかを寄贈しました。

第 54 回全国植樹祭開催・記念事業の一環とし  
て、植樹祭清和会場となった清和県民の森内、  
「木のふるさと館」には、2000 年に緑化運動 50



周年を記念して  
選出・発表され  
た「緑の良書 50  
選」一式を、ま  
た県内の市町村  
立小・中学校  
及び図書館には  
植樹祭開催に関  
連して編集され  
た「森の旅人・千  
葉」ほかを寄贈・  
設置し、多くの  
の方々に閲覧で  
きる環境を整え  
ました。

## 国土緑化運動ポスター原画コンクール 展示会のお知らせ

平成 15 年度国土緑化運動ポスター原画コンク  
ール入賞作品の展示会を下記のとおり実施します。県  
内の小・中学生がみどりへの想いを表現してくれた  
素晴らしい作品の数々をどうぞご覧ください。

本年度は過去最高の参加学校数に達し、応募も  
9,419 点と大変多くの作品が寄せられました。当コ  
ンクールは平成 16 年度も実施します。たくさんのご  
応募をお待ちしております。

| 期間        | 場 所                                   | 展示作品                    |
|-----------|---------------------------------------|-------------------------|
| 4/23~4/30 | 千葉市中央区市場町1-1<br>「千葉県庁19階県民展示コーナー」     | ●特別賞<br>●特選<br>の計36点    |
| 6/15~7/4  | 印西市多々羅田159<br>「県立北総花の丘公園<br>花と緑の文化館内」 | ●特別賞<br>●特選<br>●入選の計72点 |
| 7/13~8/3  | 柏市柏の葉4-1<br>「県立柏の葉公園 公園センター内」         | ●特別賞<br>●特選<br>●入選の計72点 |

\*展示作品は展示場所により、上表のようになって  
います。

\*展示期間中の会場休館日は除く。

また会場等の都合により展示期間等が変更になる  
場合もございますので、最新の情報は当委員会  
ホームページでご確認ください。

## みどりの日、緑のエコライフ キャンペーンを実施します

当日はみどりの重要性を PR するほか、「地球温  
暖化防止グリーンプレゼント」や緑の少年団による  
緑の募金活動を行います。

■日時 4 月 29 日 (木・祝)、午前 11 時～

■場所 JR 千葉駅東口駅前広場

\*グリーンプレゼントは先着順、配布終了時点で  
終了します。

### 表紙の絵

表紙の作品は平成 15 年度国  
土緑化運動ポスター原画コン  
クールにおいて、小学校低学  
年の部で特別賞 (千葉県教育長  
賞) を受賞した、大網白里町立  
大網東小学校 3 学年・本間翔  
さんの作品です。



## グリーンえっせんす 第 21 号

2004 年 3 月 31 日発行

発行/(社)千葉県緑化推進委員会

URL <http://www.c-green.or.jp/>

〒 299-0265 袖ヶ浦市長浦 2 号 580-148

TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522

印刷/凸版印刷(株) TEL.043-350-5611

この広報誌は、古紙配合率 100%の再生紙を使用しています。